

自然教室だより

11月・月例研修会

馬見丘陵公園自然観察会実施報告 辻本信一

今回も観察会直前まで当日の天候が見通せず、大変気を揉みましたが、ギリギリのところまで予報も一挙に好転、平成28年11月22日(火)予定通り11月度の月例研修会として、馬見丘陵公園での自然観察会を実施することが出来ました。

観察会当日はそれまでの寒気も和らぎ、時折り太陽が顔をのぞかせる絶好の観察日和となり、参加者も会員のお友達1名を含む17名と、ことのほか盛況となりました。



【池の畔紅葉のラクウショウ】

観察のコースは、当地でボランティア活動をしている阿部さんのアドバイスを受け、この時期イロハモミジやオオモミジの紅葉、更に湖畔に並ぶラクウショウの黄葉が楽しめ、植生も豊かな南側のルートを取りました。

最初に観察したのは、ケヤキの大きさの違う2種類の葉っぱ。大きい葉は光合成を一手に引き受け、小さい葉は実を付けた落枝が風に乗りやすいよう羽根がわりの役割を担っていることをみんなで観察しました。

少し歩けば、足元からかすかに甘い香り。そこには、「香出(かづ)」が語源とされるカツラの雄木と雌木がありました。その香りのもとには葉っぱの縁にある腺点。そこからマルトールと呼ばれる匂いの成分を分泌します。



【カツラの木の前で】

ルーペで観察すると鋸歯の先にキラッと輝く腺点が確かめられました。

イロハモミジ、オオモミジ、ドウダンツツジの紅葉を愛でながら更に進むと、春に黄色い花を咲かせ「春黄金花」、秋にはグミによく似た赤い実をサンゴのように実らせ「秋珊瑚」と呼ばれるサンシュユの木が鮮やかな赤い実をつけています。

その隣では、それに負けじとクロガネモチが赤い実を鈴なりにつけています。

ここでしばし一服。馬見丘陵公園でのお目当ての一つナガレヤマ古墳の頂上に上がりました。

この頃には青空も広がり頂上からの景色は絶景。錦織りなす紅葉のグラデーションをみんなで堪能しました。



【ナガレヤマ古墳からの眺望】

昼食を挟んで昼からの観察は陸橋を渡り更に南側へ、そこでは普段見慣れないウラジロガシの木がありました。シラカシとよく似た葉の裏側は蠟質で覆われ、シラカシの葉より白く、枯葉になるほどその色は増すといいます。

更にその近くには、本日のメインイベントともいえる「センナリアカマツ」。樹齢10年程の若い木ですが、花序の雄花が雌花に転化、鈴なりに松ぼっくりが出来ています。



【珍しいセンナリアカマツ】

他にもエゴの実を求めてやってくるヤマガラ姿も見られました。終わって見れば今日一日で観察した樹木の数は25種前後、充実した一日となりました。

次回は12月7日(火)、奈良公園にて今年最後の自然観察会を実施致します。



【エゴの実を求めヤマガラが】